

福山 幸夫 先生を偲んで

戸田 達史

神戸大学大学院医学研究科神経内科



故 福山幸夫先生

- 昭27年3月 東京大学医学部卒業
昭32年4月～昭40年3月 東京大学医学部小児科助手・講師・助教
昭40年4月～昭42年5月 国立小児病院小児科医長
昭42年7月～平6年3月 東京女子医科大学小児科学講座主任教授
平6年4月～現在 東京女子医科大学名誉教授
日本小児神経学会名誉理事長（1993～現在）
国際小児神経学会会頭（1982～1986）
アジア大洋州小児神経学会名誉会頭（1993～現在）
日本神経学会名誉会員（2000～現在）
日本人類遺伝学会名誉会員（1999～現在）
米国神経学アカデミー（AAN）名誉会員（1990～現在）
米国神経学会（ANA）名誉会員（2006～現在）
米国小児神経学会名誉会員（1986～現在）
平4年 Frank Ford 記念賞（国際小児神経学会）
平11年 Duchenne-Erb 賞（Deutsche Gesellschaft für Muskelkranke）
平11年 日本医師会医学賞
平11年 日本人類遺伝学会賞
平14年 世界神経学連合・国際神経筋疾患学会・合同賞
Life-long Achievement Award（終身功労賞）
平15年 フランス抗てんかん連盟アンリ・ガストー国際賞
平16年 米国てんかん学会 William G. Lennox 賞
平19年 国際てんかん連盟／国際てんかん協会てんかん大使賞
平20年 朝日賞
日本小児科学会・学会賞
日本小児神経学会功労賞
瑞宝中綬章
平22年 第1回日本てんかん学会功労賞

2014年7月17日、日本神経学会名誉会員としてご活躍された福山幸夫先生東京女子医科大学名誉教授が享年86歳でご逝去されました。福山先生のこれまでの多大な学問のご功績と日本神経学会への御尽力御貢献に対して心より深謝申し上げますとともに、先生の御冥福をお祈りします。

福山先生は宮崎県のご出身であり、昭和27年東京大学医学部を卒業後、東京大学小児科に入局、東京大学小児科助教授などをへて、昭和42年若くして東京女子医科大学小児科学講座主任教授にられました。平成6年同大学を退官され同名

誉教授にられました。また日本小児神経学会理事長、国際小児神経学会会頭、アジア大洋州小児神経学会会頭、米国神経学アカデミー（AAN）名誉会員、米国神経学会（ANA）名誉会員、米国小児神経学会名誉会員等を歴任され、その間2008年朝日賞、瑞宝中綬章などを受賞、叙勲されています。福山先生は福山型先天性筋ジストロフィーを発見するとともに、小児神経学会、てんかん学会にもご活躍され、多くの弟子を輩出されました。

福山先生とは長年福山型筋ジストロフィーの研究の面でのいろいろお世話になっておりました。神経学会会員の中ではつながりが深い点から、私が追悼文をしたためさせていただきます。

日本人の名前がついた病気は珍しいものです。その一つに「福山型筋ジストロフィー」があります。発見から、原因遺伝子の特定、似た病気も含めた発病の仕組みの解明までを、すべて日本人が手がけました。1953年に東京大病院小児科の医局に入られた福山先生は、5年目ごろから、脳性まひや重症心身障害と診断された乳幼児に、筋力が低下する筋ジストロフィーでしか見られない症状を示す例があることに気づかれました。当時、脳障害を伴う筋ジストロフィーは知られていませんでした。同様の患者が15例集まった60年、福山先生は先天性脳障害と筋ジストロフィーを合併した新たな病気として学会で報告されました¹⁾。「初めはそんなに脳の変化が強いのは筋ジスではないと批判された」と福山先生は言っておられました。地道に他の型の筋ジストロフィーと鑑別できるような臨床研究を蓄積され、80年代以降は「福山型」の名が世界中の教科書に載るようになりました²⁾。

福山先生と初めてお話したのは、1991年東京女子医科大学の医局でした。私が福山型の遺伝子の研究をすることで、どのように患者さんを採血していくかに関して、福山幸夫先生、大澤真木子先生、斉藤加代子先生ら女子医大側と、私、清水輝夫先生、中瀬浩史先生ら東京大学神経内科側とで打ち合わせをしたときでした。その後原因遺伝子の発見につながったわけですが、爾来あの微笑みと学問的熱心さで、ずっと励まされて参りました。

また個人的には、2007年中国小児神経学会に福山先生と私

が招待され、2人で一緒に教育講演をしたこと、そのあと福山先生と奥様、先生の中国の門下生らと、高級ウーロン茶であります岩茶の発祥の地、武夷山をともに川下りしたことが、一番の思い出となっております。

また、ともに受賞させていただいた朝日賞の授賞式のお言葉が大変印象的です。「約50年前、私どもは新しい筋ジストロフィーを世界で初めて概念づけました。私たちが発見する前には、こうした患者さんに付ける病名がなかったのです。正しい病名が分かった時、ご家族がその絶望から初めて救われます。」というものでした。まさにその通りです。先生の教えを胸に、一層努力していきたいと思っております。

先生、どうか安らかに眠り下さい。先生が発見された福山型は、ひよっとしたら治療ができるかもしれないところに来ており、天国から見守っていただきたいと思っております。

合 掌

文 献

- 1) Fukuyama Y, Kawazura M, Haruna H. A peculiar form of congenital progressive muscular dystrophy. *Pediatrics Universitatis Tokyo* 1960;4:5-8.
- 2) Fukuyama Y, Osawa M, Suzuki H. Congenital progressive muscular dystrophy of the Fukuyama type—clinical, genetic and pathological considerations. *Brain Dev* 1981;31:1-29.

2015 年度（第 41 回）日本神経学会神経内科専門医試験日程について

下記のとおり、2015 年度第 41 回日本神経学会神経内科専門医試験を行います。

第一次試験（筆記試験）

1. 日時：2015（平成 27）年 6 月 13 日（土曜日），9：30～17：30 予定
2. 場所：東京大学駒場 I キャンパス 11 号館 1 階
3. 受験料：30,000 円
4. 受験申請書類受付期間：2015（平成 27）年 2 月 16 日（月曜日）～3 月 20 日（金曜日）消印有効
5. 合否通知：試験終了後 10 日以内に速達親展郵便にて通知

第二次試験（口頭試験）

1. 日時：2015（平成 27）年 7 月 11 日（土曜日），受験者個別に通知
2. 場所：都市センターホテル
3. 受験料：20,000 円
4. 合否通知：試験終了後 10 日以内に速達親展郵便にて通知
5. 専門医登録料（合格者）：10,000 円

—第二次試験のみ受験される方—

2014（平成 26）年度の第 40 回，2013（平成 25）年度の第 39 回，2012（平成 24）年度の第 38 回，2011（平成 23）年度の第 37 回，2010（平成 22）年度の第 36 回試験で，第一次試験は合格，第二次試験が不合格となった方で，「認定内科医」を取得している方は，その後 5 年間で，3 回まで第一次試験が免除されます。

対象の方へは学会事務局より申請書類一式を送付致します。

【注意事項】

2011（平成 23）年度第 37 回専門医試験より，受験申請時に，神経内科研修の最後に所属した施設の研修施設指導管理責任者（指導医）による「研修修了証明書」および，達成度を自己評価した「ミニマムリクアイアメント達成状況表」の提出が必須となっています。

【受験申込書類（“第 41 回専門医試験の手引き”等）の請求】

会員番号・ご所属・氏名を明記し，郵送料として 600 円分の切手を同封の上，「日本神経学会事務局 2015 年度 第 41 回神経内科専門医試験申し込み」宛て，〒113-0034 東京都文京区湯 2-31-21 一丸ビルにご請求ください。2015 年 1 月より順次送付致します。

送付先は学会誌（臨床神経学）の郵送先となりますので，住所変更手続きにご注意ください。

※受験資格・申請方法・申請書類などについて，学会 HP の「専門医制度」の「資格試験のお知らせ」にも掲載しておりますので，“第 41 回日本神経学会専門医試験の手引き”と併せてご確認ください。

ご不明な点等ございましたら，神経学会事務局（03-3815-1080）までお問い合わせください。

編集委員会よりの謝辞

次に申し上げます査読者の先生方のご協力を得て、順調に査読・編集も進んでおります。
ここに、本年度査読をお願いいたしました先生方のお名前をあげ、謝意を表します。

平成 26 年度 査読担当者 (2013 年 12 月 1 日～2014 年 11 月 30 日依頼, 編集委員以外)

青木 正志	秋山 久尚	朝倉 邦彦	朝比奈正人	有村 公良
安東由喜雄	池田 修一	石原 健司	市川 博雄	伊藤 泰広
伊藤 義彰	犬塚 貴	宇川 義一	臼井 桂子	梅原 藤雄
卜部 貴夫	大熊 泰之	太田 晃一	大槻 美佳	大原 義朗
岡田 靖	岡本 裕嗣	荻野美恵子	小野寺 理	海田 賢一
柏原 健一	神田 隆	北川 一夫	木下真幸子	楠 進
栗山 勝	桑原 聡	郡山 達男	後藤 順	小張 昌宏
榊原 隆次	櫻井 圭太	佐々木征行	柴田 護	嶋崎 晴雄
清水 俊夫	清水 利彦	鈴木 匡子	鈴木 重明	高嶋修太郎
武田 篤	田中 恵子	田中耕太郎	田中 正美	田中 亮太
棚橋 紀夫	千葉 厚郎	坪井 義夫	豊田 一則	中島 一郎
西川 典子	西澤 正豊	野寺 裕之	中嶋 秀人	高橋 伸佳
橋本洋一郎	長谷川 修	長谷川泰弘	濱田 潤一	平田 幸一
平野 照之	平山 幹生	法化図陽一	松井 真	松本 昌泰
峰松 一夫	三輪 英人	村井 弘之	村田 美穂	本村 政勝
矢崎 正英	矢澤 省吾	矢部 一郎	山上 宏	山元 敏正
吉田 一人	米田 誠			

<非会員ご協力者一覧>

青木 茂樹	園田 茂	原 行弘	百鳥 祐貴	森 壱
吉村 紳一				

(注 敬称略、五十音順で名前を記載)

平成 26 年臨床神経学電子ジャーナル全文 PDF 閲覧回数年間トップ 30

(集計期間 平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 10 月 31 日)

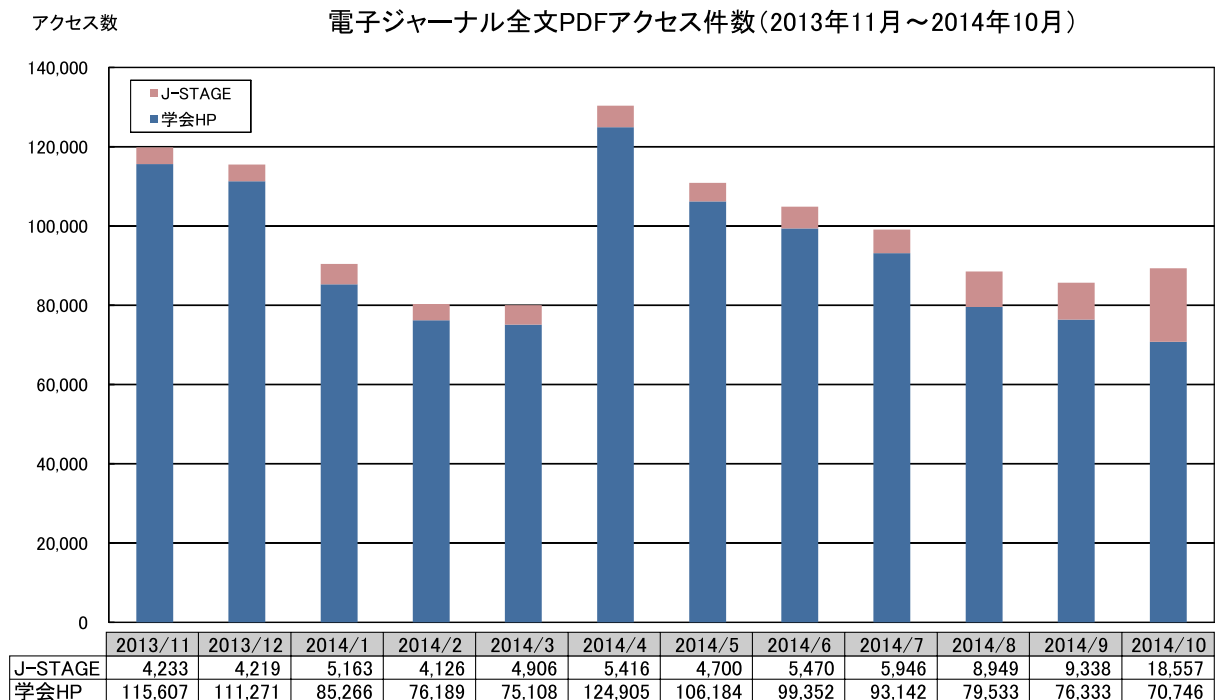
※ 53 巻, 54 巻掲載の論文は, 会員限定公開中もしくは一般公開後 1 年を経過していないため, 集計期間中における閲覧回数は少なくなっています.

	掲載号	種別	著者名	タイトル	閲覧回数
1	48 巻 9 号	総説	葛原 茂樹	ALS 研究の最近の進歩: ALS と TDP-43	190,533
2	51 巻 1 号	短報	重藤 寛史	高齢初発非けいれん性全般てんかん重積状態の 1 例	158,142
3	50 巻 3 号	症例報告	迫 祐介	発汗障害によるうつ熱をきたしたパーキンソン病の 1 例	52,714
4	48 巻 4 号	原著	高野 真	救急現場におけるてんかん重積状態の臨床的特徴	33,992
5	49 巻 6 号	総説	高草木 薫	大脳基底核による運動の制御	28,497
6	52 巻 7 号	総説	安藤 哲朗	頸椎症の診療	21,687
7	51 巻 11 号	51 総会 SY	長谷川成人	神経変性疾患における蛋白癌仮説	15,323
8	49 巻 2 号	総説	鈴木 匡子	高次脳機能障害の診方	14,319
9	49 巻 4 号	総説	安田 斎	糖尿病性ニューロパチーの病態と治療	13,856
10	50 巻 11 号	51 総会 SY	山本 康正	Branch atheromatous disease (BAD) の概念とその臨床的意義	11,012
11	51 巻 7 号	総説	目崎 高広	ジストニアの病態と治療	9,168
12	48 巻 11 号	49 総会 SY	飯塚 高浩	抗 NMDA 受容体脳炎の臨床と病態	8,704
13	50 巻 11 号	51 総会 SY	武田 英孝	BAD をどう治療するか	7,982
14	49 巻 11 号	50 総会教育	飯塚 高浩	抗 NMDA 受容体抗体脳炎の臨床と病態	7,755
15	48 巻 11 号	49 総会教育	大槻 美佳	失語症の診療—最近の進歩—	6,357
16	51 巻 11 号	52 総会 SY	巨島 文子	延髄外側梗塞 (Wallenberg 症候群) による嚥下障害	6,081
17	50 巻 6 号	総説	田中 恵子	傍腫瘍性神経症候群と抗神経抗体	5,887
18	49 巻 11 号	50 総会教育	辻 貞俊	新しいてんかん分類と抗てんかん薬の使い方	5,659
19	50 巻 11 号	Hot Topics 4	平 孝臣	バクロフェン髄腔内投与療法	5,541
20	51 巻 11 号	51 総会教育	中野 今治	前頭側頭葉変性症 (FTLD) の概念と分類 update	5,299

	掲載号	種別	著者名	タイトル	閲覧回数
21	50巻9号	総説	望月 秀樹	パーキンソン病の治療と病態	5,137
22	49巻11号	50総会SY	斎田 孝彦	視神経脊髄炎（NMO）の治療	5,046
23	51巻11号	52総会SY	山本 敏之	筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病に対する嚥下障害の評価と対策	4,906
24	50巻8号	総説	富本 秀和	皮質下血管性認知症の診断と治療	4,812
25	48巻11号	49総会教育	才藤 栄一	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	4,732
26	51巻4号	原著	園生 雅弘	感覚障害を主徴とする橋・中脳梗塞：診断的困難さとSEPの有用性	4,692
27	51巻9号	総説	重藤 寛史	神経内科医としてのてんかん診療	4,653
28	48巻11号	橋林賞	織茂 智之	パーキンソン病およびレビー小体型認知症の早期診断法の確立とその病態機序に関する研究	4,618
29	49巻7号	総説	三苫 博	小脳症候の病態生理	4,442
30	48巻11号	49総会教育	木村 和美	脳梗塞急性期の診断と治療	4,395

※責任著書の所在が明らかでない場合は一番初めの方を抜粋しております。

※51巻12号掲載の第52回日本神経学会学術大会一般演題抄録（全ての演題が対象）に4,549の閲覧がありました。トップ30からは除外いたしました。



年間総閲覧回数

2010年11月～翌10月	261,184
2011年11月～翌10月	466,166
2012年11月～翌10月	863,623
2013年11月～翌10月	1,113,636